

科目名 (英)	コミュニケーション技術B (Communication Skill B)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜、3時限目
【授業の学習内容】 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身に付けることができる。またレクリエーション支援を通してのロールプレイやグループディスカッションから、対人援助職(レクリエーションインストラクター等)としてのコミュニケーションのあり方が理解できる。 ※実務者経験:福祉施設等に所属していた。主業務は高齢者の介護及び相談支援業務を担当していた。※取得資格:介護福祉士・社会福祉士							
【到達目標】 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身に付けることができる。具体的には「レクリエーションの意義」、「レクリエーションを支える制度」、「レクリエーションインストラクターの役割」、「レクリエーション支援論」などが理解できる。							

授業計画・内容	
1回目	「レクリエーションの意義①」…レクリエーションについて、歴史とその背景について理解できる。
2回目	「レクリエーションの意義②」…人を支える「支援者」にとつてのレクリエーションについて理解できる。
3回目	「レクリエーションを支える制度」…公認指導者制度、レクリエーション組織について理解できる。
4回目	「レクリエーションインストラクターの役割①」…レクリエーション支援の考え方について理解できる。
5回目	「レクリエーションインストラクターの役割②」…レクリエーションインストラクターに期待される役割について理解できる。
6回目	「レクリエーション支援論①」…ライフスタイルごとのレクリエーション(乳幼児期・児童期・青年期)について理解できる。
7回目	「レクリエーション支援論②」…ライフスタイルごとのレクリエーション(壮年期・中年期・老年期)について理解できる。
8回目	「レクリエーション支援論③」…高齢社会の課題とその働きかけ(個人・集団・環境面)について理解できる。
9回目	「レクリエーション支援論④」…高齢社会の課題とその働きかけ(個人・集団・環境面)について理解できる。
10回目	「レクリエーション支援論⑤」…少子化の課題とその働きかけ(個人・集団・環境面)について理解できる。
11回目	「レクリエーション支援論⑥」…少子化の課題とその働きかけ(個人・集団・環境面)について理解できる。
12回目	「レクリエーション支援論⑦」…地域とレクリエーション活動について理解できる。
13回目	「レクリエーション支援論⑧」…地域とレクリエーション活動について理解できる。
14回目	「レクリエーション支援論⑨」…レクリエーションを通じた「つながり」の再生について理解できる。
15回目	「レクリエーション支援論⑩」…子供と高齢者の相乗効果を目指した働きかけについて理解できる。
準備学習 時間外学習	準備学習…授業に臨むにあたって、教科書の内容を熟読しておく必要があります。 時間外学習(復習)…各単元の講義後に確認テストを実施します。講義の復習が必要です。
評価方法	成績の評価は、「試験」の点数で100点満点とする。「試験」には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験の評価などが含まれる。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 教科書: 楽しさをとおした心の元気づくり (公益財団法人 日本レクリエーション協会)	